



木更津市立木更津第二中学校
〒292-0801 千葉県木更津市請西941番地
☎0438(36)2280 FAX0438(36)2233
E-mail:kisarazu2-j@kisarazu.ed.jp
<https://www.fureai-cloud.jp/kisa-kisarazu2-j>



木二中 学校だより 令和7年4月21日
No.03/88 校長 山元 竜二

謙虚であること ～ 残念ながら「勘違い」は自分で気付けない ～

令和7年度もおよそ3週間が過ぎ、ゴールデンウィーク目前となりました。中学生であっても気付かないうちに疲れが蓄積されてくる時期でもあります。ゴールデンウィークを良い機会に、心と身体をリフレッシュできればいいですね。

さて、新学期がスタートして2週間、新しい環境、新しい交友関係の中で、自分自身の言動や行動はどうだったろう？心眼を以て(もって)他を利することを意識できただろうか？自分の足下を見失ってはいいだろうか？声なき声にしっかりと耳を傾けることができているだろうか？

各クラス、各学年、そして生徒会等、それぞれの組織の中でリーダーと呼ばれる人たちは、特に自分自身の立ち居振る舞いに細心の注意を払わなければならないと思います。では、具体的にリーダーと呼ばれる人たちが気をつけなければならない立ち居振る舞いって何だと思いますか？

行動力、判断力、決断力、カリスマ性、その他にも指導力だったり、組織マネジメント力だったり、時に組織を引っ張っていく力強さも必要だし、そっと背中を押して勇気を与えてくれる優しさも必要。そう、実はリーダーに求められる資質・能力って多岐にわたるのです。もちろん、どんな組織なのかにも拠ると思います。しかしながら、どんな組織においても共通してリーダーと呼ばれる人に求められる資質・能力は、たった一つしかない。それは、「安心感」です。私が考えるリーダーとして最も欠くことのできない資質・能力は、「この人がいれば大丈夫」という「安心感」なんです。

野球で例えれば、9回裏ノーアウト満塁、スコアは0-0、サヨナラ負けになりそうな絶体絶命の大ピンチ、マウンドに集まったナインにキャプテンが「どうしよう、どうしよう、負けちゃうよ…」と発言したらどうだろう？内心ハラハラ、ドキドキであっても「みんな慌てることなんか何一つない。しっかりと地に足をつけて踏ん張ろう。こんな状況、いくらでも練習してきたじゃないか。」という力強い言葉だったらどうだろう？答えは明白、誰もがそんなリーダーの力強い言葉に安心することでしょう。それがリーダーたる者だし、立場で物を言うというのはそういうことなんだと思います。

悲しいことにその逆もあります。世の中には組織の中で勘違いをしてしまっている痛いリーダーが少なからず存在しているのも事実。「チームは俺なくして機能しない。」とか「この組織は俺が動かしている。」とか、そんなことを平気で口にする人ほど「痛い人」だと周囲に思われていることに気付かない、いや、気付けない。口ではそう言うおきながら組織に問題が起これば「自分は関係ない」と責任転嫁、やることなすこと言行不一致(口で言うことと行動とに矛盾があること。主張と行動が食い違うこと。)では、誰もそんなリーダーについていくわけがない。安心できないからです。

私は教師駆け出しの20歳代前半、私立高校で学級担任、野球部の顧問をしていた頃、とてつもなく大きな違和感を感じていました。クラスの生徒の保護者も、野球部の生徒の保護者も、20歳代の若造(私)にみんな頭を下げるからです。「いつもお世話になっています。」と。野球部バリバリの縦社会で生きてきた私にとって、年齢が私より2倍にもなる人生経験豊富な大先輩たちが若造に頭を下げるなんて、どう考えても違和感でしかありませんでした。そのおかげで教職員という座布団の上であぐらをかくことなく(=勘違いをせずに、生意気にならずに)曲がりなりにも今日まで教師を続けられていると思っています。

体育祭の応援団長や合唱コンクールのリーダーだったり、指揮者だったり、リーダーと呼ばれる存在であれば、それぞれの行事等で人の上に立つことになるとと思いますが、決して「勘違い」をすることなく集団を目指す方向へと正しく導いてほしい。リーダーが発揮すべき力は、「ああしろ、こうしろ、何でできないんだ？」という「権力」ではなく、「こんな人になりたい、こんなリーダーについていきたい。」と思わせる影響力です。私は、そんなリーダーたちを傍からそっと見守りたいと思っています。

ちなみに、木更津二中には、勘違いをしている先生は一人もいません。常に謙虚であり、我々教職員が発揮すべき力は、「権力」ではなく「影響力」、「影響力」なき者は教師ではないと認知しているからです。